

〔連載記事 シンハンリュウ 深韓流からみた韓国事情―第10回―〕

深韓流 ―韓国の「ことわざ」からみるソウル― (8)

法政大学大学院経済学研究科教授 朴 侖玄*

1. 僕とメディア

読者の皆さんにとって2011年はどんな年でしたか? 僕にとっては、ある意味衝撃的な年でした。その全ての始まりは、昨年6月に講談社から刊行した『KARA, 少女時代にみる「韓国の強さ」』でした。

刊行した後、毎日新聞社、朝日新聞社、日本経済新聞社を筆頭に、ANAN、週刊現代などの雑誌、そしてNHK、TBS、日本テレビ、ニッポン放送などから声が掛かり、「韓流」「K-POP」「韓国人の恋愛」「韓国人の考え方」などについていろいろ取り上げていただきました。

まさかこんな僕に、ここまでメディアから声が掛かるとは思ってもいませんでした。初めてのことで大変怖くなって、一部を除き大半はお断りさせていただくことにしました。そんな行動をみた知人や友達からはもったいないという声もたくさんあったのです。

「なんで? テレビに出ればいいじゃない?」

「有名になるからいいじゃないの?」

とおっしゃる方も多いのですが、実際にテレビに出るといいことばかりではありません。

過去、フジテレビの『韓タメ! DX』の司会を約1年半務めた時、僕はテレビには向いてないということがよくわかりました。ところがスポットライトを浴びる気持ちよさも味わって、まるで自分が韓流スターになったかのような気分にもさせられました。

公に出るということ、即ちテレビに出る人には

ある条件が必要なのではないかと思われます。それは「何をいわれても打たれ強い人」ではないかと個人的に思います。

近年、ネットの普及でどこでも個人の意見が伝わるようになり、自分の発言に対する予想もつかなかったクレームで波紋を呼ぶこともたくさんあります。たまに駅のホームで電車を待っていると、電車広告にのっている俳優に対する若者の恐ろしい会話が耳に入ってくるのです。

「あいつ! きもちわるくねえか?」

「見るだけで本当にむかつくんだよね」

電車や屋外の広告モデルについて暴言をはく人が思った以上に多いことにびっくりします。仮に本人がその会話を聞いたらどう思うのでしょうか、とても心が傷つくでしょう。僕は性格的にマイペースでもないし、一言いわれたことで1ヵ月以上仕事にまで影響を及ぼすほど、小心者なのです。正直、スポットライトを浴びたい気持ちもやまやまですが、小心者の性格からやはり僕にはテレビの仕事は向いていないかなという結論にいたりしました。もちろん、文章を書くのは大好きなので、これからもがんがん書きます。

テレビに出ると、韓流ファンや読者から一番多く聞かれるのは、「番組の裏話を教えてください」というものです。僕みたいな一時的に関わっただけに過ぎない人間が業界の裏の話まで知ることはありません。通常、収録のために、2〜3倍の時間をかけて撮影しますが、結局使うのはほんの一部だけです。ただし、収録の合間のスタジオの裏ではたまに、スターや有名人と話すことができま

* オフィシャルホームページ URL : <http://www.pakusensei.com/>

す。先日、日本テレビの「所&さんまの世界を動かしているのは誰だ会議Ⅱ」という特番に出演した時は、K-POPのトップアイドル「少女時代」を作り出したSMエンターテインメントの社長キム・ヨンミンさんとスタジオの裏でいろいろ話をしました。彼は僕より1つ年下ですが、ものすごく流暢な日本語で、ビジネスを展開するやり手でした。

随分と前の話ですが、『韓タメ！DX』の司会を務めていた頃、フジテレビのメイク室で、一度お笑い芸人のハリセンボンさんとすれ違ったことがあります。退室する時のメイク室の皆さんに対する非常に低姿勢で礼儀正しい彼女達の様子はすばりしかったです。

NHKの「ドラクロワ」では、お笑い芸人の森三中さんとご一緒させていただき、礼儀正しい彼女達の様子をみてまた1つ勉強になりました。

茂木健一郎さんはとても気さくな方でキレのよい話をすることで普段から懂れていたのですが、まさか茂木さんのニッポン放送の番組から声をかけられるとは夢にも思いませんでした。彼は気を使って下さって、緊張していた僕のよさを引き出そうと一生懸命で、さすがプロは違うなと思いました。

ところがどのメディアもそうですが、収録中はまるでプライベートでも仲がよさそうに話をしていますし、収録が終わっても、その延長線でなにかやり取りがあると思う方もたくさんおられますが、収録が終わった途端、みなさんは礼儀正しい人になって互いに挨拶をして退場するのです。実は、未だに僕にはそのギャップが耐えられないのです。

読者や韓流ファンの皆様からよく聞かれるもう1つの質問は、「メディアで何を一番多く質問されるのですか？」というものです。茂木さんの番組でもそうでしたが、名前の次によく聞かれるのは「韓国のどこの出身ですか？」という質問です。

僕は韓国の田舎、義興（ウィフン）という街で生まれ、両親と一緒に幼い時に韓国の第2の都市、プサンへ移住して育てられたのです。

韓国第2の都市、プサンというと、多くの方が「ソウルから近いですか？」と首都ソウルを基準にプサンを理解しようとするような気がします。

やはりNO.1はすぐ覚えられてもNO.2以下はなかなか脚光を浴びるチャンスがないのです。

北九州市の読者の皆さんには大変申し訳ないのですが、韓国では「北九州市」または「小倉」という地名の知名度は非常に低いのです。

「北九州ってどこにあるの？」

「人口100万人の都市なのに、なぜ俺が知らないのだろう？」

仙台や広島よりも知名度が低いし、別府よりも低いのです。なぜここまで知名度が低いのでしょうか？韓国で福岡を知らない人はいない事と比べると、それが北九州の国際化の現状を表しているのではないかと個人的には思うのです。

自分達の街の名前を海外へ知らせるのも国際化、国際交流を考える時に非常に大事なことで、そのために行政機関も何かしら努力をし続けるべきでしょう。

その知名度をあげるためには、いくつかの方法があるかと思います。そのうち、「海外の看板をうまく活用すること」が最も効果的ではないかと個人的に思いますし、それを何度も北九州市の当局の皆さんにも話をしております。

韓国に行った事のある日本人ならば、街中で日本食や居酒屋が多いことにびっくりする人もたくさんおられるでしょう。とくにプサンの旧中心街でも裏道には日本語の看板や和食、居酒屋がずらりと並び、ジャパニーズタウンを連想させます。

例えば、韓国の地方自治体と一緒に組んで、市内のお店の看板に「小倉」「北九州」という名前を使うことで、北九州市が「補助金」を出すとい

う政策を実施すれば、それは投入する補助金以上の効果が期待されると思うのです。

東京や大阪などメガ都市ではなく、隣にライバル福岡市という都市がある以上、海外現地で、日々生活する空間のなかで触れ合う日本語「小倉」「北九州」の名称がそのまま外国人の頭に残り、それが外国で北九州のイメージを作るわけです。行政当局は真剣に考えてほしいなと僕は思うのです。

話がずいぶんとそれましたが、プサンという街に話を戻しましょう。どうしても外国のイメージは、首都と直結することが多いのですが、韓国も例外ではありません。韓国へ行った事があるという話題を聞いても、そのほとんどがソウルの話になっているのです。

世界のいろんな国々の古いことわざのなかで、国内の地域をどのように描いているのでしょうか？ 全て調べたわけではありませんが、外国のことわざで、自国の首都を取り上げるものはわりと珍しいようです。

ところが韓国のことわざでは、実に「ソウル」に関するものが多いのです。『NAVERことわざ辞書』を調べると、ソウルだけで53のことわざがあるのです。それに対して第2位の都市、プサンに関することわざは1つもあります。その代わりに最も差別されてきた地域である「済州」には8個あるのも特徴です。とくに済州はマイノリティ（弱者）の立場に例えることで、馬鹿にされる地名としてよく使われたのです。今回は、韓国の首都、ソウルに関わることわざをご紹介しますので、だいたいと思います。

2. ソウル志向

「말은 낳으면 제주도로 보내고 사람은 나면 서울로 보내라」

「マルン／ナミョン／ジェジュドロ／ボネゴ／

サラムン／ナミョン／ソウルロ／ボネラ」^(注1)

直訳すると「馬が生まれたら済州道へ送り、人が生まれたらソウルへ送れ」という意味ですが、「人間が出世したいならソウルで勉強させた方がいい」という意味で、日常生活でもよく使われることわざです。

韓流ドラマで、『素足の青春／「청춘의 맨발」^(注2)』『レディ・プレジデントー大物ー／「대물」^(注3)』などで、主人公が出世のために、田舎からソウルへ行こうと決心するシーンが出てきますが、その時に、周りの人々はこのようなセリフをいいます。主人公の出世がひとつのストーリー展開になっており、よくこのセリフが使われるのです。

地理学では「専門化」あるいは「産地」という概念があります。全ての地域に全ての資源が分布することは物理的に不可能です。よって、特定の資源は特定の地域で採れることがよくあり、そのような現象を「専門化された地域」あるいは「地域の優位性」ともいいます。

韓国で「馬」といえば、その産地としてまず人々の頭に浮かぶのが「済州島」です。いつから済州島が馬の産地となったのかについての正確な記録は残っていませんが、「5つの穀物の種とともに子牛と子馬がいたという神話の記録をみると牛と馬を育てたことが相当の前の話では」という説が有力です。また先史時代の遺跡にも馬の遺骨が発見されたそうです（キム、2005）。

本格的に馬を育てたのは、高麗の25代国王チュンヨルワン（충렬왕, 忠烈王, 1236～1308年）時代に元から馬160頭を連れてきたことが始まりだといわれています。もちろん先代、24代国王ウオンジョン（원종, 元宗, 1219～74年）時代に、すでに牧場を設置したのですが、本格化されたのはその後のようです（キム、2005）。

済州島は馬の産地という意味もありますが、そ

れは韓国の中でも長年差別をうけてきた地域のイメージを表してもいいと思います。

昨年、講談社から『KARA, 少女時代に見る「韓国の力」』を出版した後、驚くほど数多くのメディアから出演やインタビューの依頼を受けました。僕はK-POPや韓流のエキスパートでもないのに、「なぜこんな僕に?」と記者やディレクターに聞いてみると、皆が同じ答えをしてくるのです。「韓流やK-POPのパワーを韓国人の気質から理解したいのですが、大学の先生でそれを語れるのはパク先生しかいないのです」。

そして彼らは、「韓流ドラマをみても、韓国の大金持ちってすごいですね?」「ソウルってめっちゃめっちゃ物価高いですよ?」「東京以上にしゃれた店が多いですよ」といった「ソウルの経済とその発展ぶりについて驚いた」と語ります。

韓流ドラマの多くは、「頂点」を目指して頑張る主人公、そして貧富の差や親の反対、身分の違いなどが障害として働き、主人公を苦しめているのです。当然ながら、主人公が住む場所＝空間的概念が必要なのですが、その多くの空間はソウルを中心に繰り広げられているのです。

読者の中で、ソウルとプサンに足を運んだことがある方は、日本の東京、大阪以上に、地域格差があることを感じたかと思います。

「もう少し大きい都市かと思ったら…」と韓国第2の都市プサンがソウルに比べて遥かに小さいことに驚いた方々も少なくないようです。

ソウルは経済的機能だけではなく、政治的機能、行政的機能、文化的機能が集中していて、その恩恵を受けるチャンスも、社会的地位を高めるチャンスも実に多いのです。

このことわざは、ソウルがいかに様々な機能が集中しているのかを意味するものでもあります。

似ている表現で次のことわざがあります。

「서울에 살면 당나귀도 연설한다」

「ソウルエ／サルミョン／ダンナギド／ヨンソルハンダ」^(注4)

直訳すると、「ソウルに住めば、ロバも演説ができる」という意味ですが、「出来ない人でも、ソウルに行ったら必ず何かしら成果をあげられる」という意味でよく使われます。

ソウルは600年間韓国の首都となっていたのですが、だからこそソウルで生活すると不可能なものも可能にさせるという意味を含んでいるのです。

僕はプサン出身で、子供の頃からプサン育ちにもものすごくコンプレックスをもっていたのです。ソウルの人々は他の地域出身者にはいわないのに、必ずプサン出身の人には「この田舎者」とからかうのです。その度にプサン出身の人はムキになって「田舎者ではない!」と反論するのです。本当に今でも不思議だと思います。

僕はそんなコンプレックスから子供の頃から絶対に大学はソウルへ進学して、絶対に成功してやる!という願望があったのです。

1988年はソウルオリンピック開催という韓国にとって歴史的な年でもありましたが、僕にとっても歴史的な年でした。初めて親元を離れ、ソウルにある大学へ進学したのです。

大学受験のためにソウルへ行く前に、僕の母親から「ソウルは本当に寒いらしいから、暖かいダウンでも買いに行こう」といわれ、当時は相当の出費だったのですが、大金を出してブランド品の赤とグレーのリバーシブルのダウンジャケットを買ってもらいました。僕ははじめてブランド品を買ってもらった嬉しさにルンルン気分だったのですが、そのうち変な声が聞こえてきたのです。それは僕の少し後ろから歩いてきた母親が必死で涙をこらえている声でした。僕は日本で教鞭をとるようになってから、あの日母親が必死で泣き声を

こらえた理由は、僕のことを手放さなければなら
ないと実感したからなのだ、とわかりました。

僕がソウルへと必死になった理由も、32歳で夫
をなくして1人で息子を育ててソウルへ送りだそ
うとした母の理由も、実は「ロバも演説する」と
いう「ソウルは不可能なものを可能するという夢
のパラダイスかもしれない」という強い信念があ
ったからなのではないのでしょうか？僕は今そう思
うのです。

「서울에 가야 과거도 본다」

「ソウレ／ギャ／ガゴド／ボンダ」^(注5)

直訳すると「ソウルへ行ったら、科挙（ガゴ、
과거＝昔の試験）も受けられる」という意味です
が、「科挙に落ちようが受かろうが、とりあえず
ソウルへ行かないといけない」という意味で、「目
的地に行けば、求めるものの結果がわかる」とい
う意味でよく使われます。

韓流ドラマで、時代劇で必ずといっていいほ
ど「ガゴ」が出てきます。

科挙は、試験科目によって挙用するという意味
です。官吏として選ぶ人材を選抜するために行っ
た試験です。その由来は、中国の漢からだといわ
れています。韓国では、新羅ウオンソン王4年に
実施したものが始まりだといわれています。高麗
時代には、文官を重視し、武官を選ぶ科目はあり
ませんでした。その後朝鮮時代には、文、武両立
するようになりますが、韓国は日本と違って、武
官よりも文官が高く評価され、ヤンバン（朝鮮時
代の支配階層）が出世するためには、この試験に
合格するというプロセスを必ず経たのです。

ヨン様の出身大学「成均館（ソンギョンカン）
大学校（성균관대학교）」の由来も、朝鮮時代の
最高教育機関である「成均館（ソンギョンカン、
성균관）」なのです。

『宮廷女官チャングムの誓い／「대장금」^(注6)』『同
伊／「동이」^(注7)』『女人天下／「여인천하」^(注8)』
『チャクペー相棒ー／「짝패」^(注9)』韓流ドラマの
時代劇で、「酒幕（ジュマク、주막）」という場所
がよく登場します。軽い食事を提供する所ですが、
ご飯を食べて、ハンヤン（ソウル）で行われるカ
ゴの試験を受けるために、ソンビ（선비）がよく
泊まる場所でもあるのです。

出世するためには、官吏になる過程でガゴを受
けないといけないのですが、地方では試験を受け
られません。その意味で、いかに昔から政治的
にもソウル一局集中が存在していたかがわかるで
しょう。

似ている表現で次のことわざがあります。

「서울에 가야 과거에 급제하지」

「ソウレ／ギャ／ガゴへ／グプジェハジ」^(注10)

直訳すると、「ソウルへ行かないと、科挙に受
からない」という意味です。

「하늘을 봐야 별을 따지」

「ハヌルウル／ヴァヤ／ビョルウル／タジ」^(注11)

直訳すると「空を見てこそ、星が取れる」とい
う意味ですが、結論として上に述べたことわざと
同じ意味で、日常生活でもよく使われるのです。
とくにこのことわざは、『不良カップル／「불량
커플」^(注12)』『不屈の嫁／「불굴의 며느리」^(注13)』『愛
を信じます／「사랑을 믿어요」^(注14)』などの韓流
ドラマの中で、恋愛に消極的な人に向かって友人
や家族がいうセリフでよく登場します。また、子
供のできない女性が自分のせいではなく、夫のせ
いだとつぶやくときにもよく使われます。覚えて
おくと、韓流ドラマが楽しくなります。

「가난할 수록 서울로 가라고 했다」

「ガナンハル／スロク／ソウルロ／ガラゴ／ヘッタ」^(注15)

直訳すると、「貧乏ほどソウルへ行けといわれている」という意味ですが、「本当に成功したいのであればソウルへ行くべし」という意味で、これも韓流ドラマよく使われます。

『ラスト・スキャンダル／「내 생애 마지막 스캔들」^(注16)』『バリでの出来事／「발리에서 생긴 일」^(注17)』など多くの韓流ドラマで、主人公は子供の頃、貧乏の家庭で過酷な生活を強いられているのです。その貧しさが後、出世欲へと繋がったり、金持ちのひととの結婚という形で表れたりするのです。もちろん貧富の差が原因の親や周りの反対が、恋の障害となっているのです。そんな貧乏の人にとって、ソウルは自分の身分をあげられる大きなチャンスでもあるのです。

『王と私／「왕과나」^(注18)』『女人天下／「여인천하」^(注19)』『チャクペー相棒－／「짝패」^(注20)』をみてもわかるように、身分制度が厳しかった朝鮮時代には、ヤンバンという身分の高い階級にも貧富の差があったのです。『王と私／「왕과나」^(注21)』『女人天下／「여인천하」』で王妃役、ク・ヘソン（구혜선）とチョン・インファ（전인화）は最終的に王妃になりますが、家は決して豊かではなかったのです。

セリフのなかでも、「肩書きだけヤンバンで、平凡で貧しい生活を送る立場」という話も出てきます。このように、いくら貧乏でもヤンバンは、ガゴという試験制度や結婚という形で貧乏から抜け出せますが、身分の最も低い商人や賤民は貧乏から救われなかったのです。しかしソウルという街には、人口が増え、仕事も増え、たとえ身分の低い人であっても仕事をして、僅かながらも貧乏から抜け出せる希望があったのです。

経済的に最悪の条件でも、ソウルは貧しい人にも夢を与えることから、昔も今もソウルへと人が集まっているのかもしれません。

「서울이 좋다 해도 임이 있어야 서울이다」

「ソウリ／チョッタ／ヘド／イミ／イッソヤ／ソウルイダ」^(注22)

直訳すると、「ソウルがいいといっても、恋人があつてこそソウルだ」という意味ですが、「いくらソウルがいいといっても、恋人がいないソウルにいるのは無意味だ」という意味で、韓国人の恋愛感をあらわすことわざでもあります。

『韓国人を愛せますか?』（朴，2008），『韓国人は好きですか?』（朴，2009），『韓流「女と男・愛のルール」』（朴，2010）などでもお話したように、日本人と韓国人の根本的な違いは「人間関係の物理的・心理的距離感」なのです。

だからかもしれませんが、僕の目には、さびしい日本人、愛されたがり屋の韓国人と思えることがたくさんあります。

日本人の中では、恋人がいなくて、会社帰りにお弁当を買って家に帰り、1人で食事をする時、寂しいと思う人はいるかもしれませんが、そんな自分が惨めだと思う人はいるのでしょうか？ ほとんどいないでしょう。

しかし実際に韓国人の中ではその寂しさを惨めだと思う人が結構多いような気がします。もちろん僕もその1人なのです。

寂しいと思う時、日本人はどこかでその孤独な気持ちを少し楽しんでいるのではないのかなと思うことが多いですが、読者の皆様はいかがでしょうか？

韓流スターの中でもいろんなタイプがありますが、少し影のある俳優が韓流ファンに根強く支持されてきたのもそのひとつではないのでしょうか？

その代表的な人物が『冬のソナタ／「겨울연가」^(注23)』のヨン様ことペ・ヨンジュン（배용준）だと個人的に思います。彼の演技には強さも弱さも人間らしい普通の平凡な雰囲気を感じさせられるものがある一方、どこかで「寂しさ」を感じさせる影があるのです。『王女の男／「공주의 남자」^(注24)』の主演パク・シフ（박시후）や『黄金の魚／「황금 물고기」^(注25)』の主演イ・テゴン（이태곤）の人気ぶりも、このことがその理由の1つなのではないかと思うのです。

しかし韓国人は、常に誰かと一緒にいないととても不安になりがちなのです。近年、個人主義が蔓延するといっても日本人と比べればまだまだ人間関係の距離感は近い方でしょう。

出世のために、経済力のために、全ての環境が揃っている頂点＝ソウルへ向かって走ることも大事だけど、そこに愛する人がいなければ、全ては無意味だということわざは、韓流ドラマの原点を表すものだと思います。

3. 最終目的＝頂点としての象徴

「모로 가도 서울만 가면 된다」

「モロ／ガド／ソウルマン／ガミョン／デンダ」^(注26)

直訳すると「横道にそれでも、ソウルにいけさえすればよい」という意味ですが、「どんな手段を使っても、目的さえはたせばいい」という意味で日常会話の中でもよく使われます。

韓流ドラマ『オン・エア／「온 에어」^(注27)』で、キム・ハヌル演じる芸能事務所のマネージャーが、芸能人を売り込むために汚い手口を使うライバル事務所社長ともめる時に、相手役がこのセリフをいうのです。

なぜここまでソウルへこだわるのでしょうか？とにかく最終目的がソウルだということが強調さ

れているのです。

似ている表現で次のことわざがあります。

「모로 가나 기어가나 서울 남대문만 가면 그만이다」

「モロ／ガナ／ギオガナ／ソウル／ナンデモンマン／ガミョン／グマンイダ」^(注28)

直訳すると「横道にそれでも、這っていても、ソウルの南大門にさえ行ければよい」という意味です。古くからソウルを取り巻く城門は8つがありましたが、そのうち、最も大きいといわれているのが南大門なのです。ソウルに何度も足を運んだ方はお分かりになるかと思いますが、ソウルの中心街にあって、南大門市場のすぐ近くにあるのです。

1962年12月20日に韓国国宝第1号に指定された南大門は、残念なことに、2008年2月10日に起きた火事で損失しました。

古くから風水地理を強く信奉してきた韓国人にとって、南大門は特別な意味をもちます。

城壁都市であった当時のソウルは漢城（ハンソン、한성）と呼ばれ、そこには門が4カ所ありましたが、最も規模が大きいのは崇礼門です。一般的な懸板（扁額）が横書きであるのに対し、崇礼門の懸板は縦で書かれています。これは炎の形に似ている冠岳山からの火気を阻むため、文字を縦書きにして城門を塞ぐという風水的措置によるといわれています。崇礼門は1396年に建てられ、1447年と1479年に改装され、通称、南大門と呼ばれているのです。

4つの大門の中でももっとも大きく、価値が高いといわれている南大門はソウルの顔ともいえるのではないのでしょうか？それが人生の最終目的地で、そこに向かうためには手段や方法を問わずその目的へ全力で向かう、という精神は、ある意味

で、韓国人のパワーを引き出す源かもしれません。

「서울 구경 못해 본 사람은 저승 가셔도 쫓겨 나 온다」

「ソウル／グギョン／モッヘ／ボン／サラムウン／ジョスン／ガソド／チョッギョ／ナウンダ」^(注29)

直訳すると「ソウルを見たことのない人は、亡くなくてもあの世で追い出される」という意味で、「誰もが認められることを知っておかないと、馬鹿にされる」という意味でよく使われるのです。

4. 結び

今回は、韓国の「ソウル」を表現していることわざでソウル志向と最終目的＝頂点としての象徴についてお話をしました。韓国人が思う「ソウル」は、日本人が思う首都「東京」以上に、重いものがあるのでしょうか。だからここまで多くのことわざが存在するのではないのでしょうか？

注

(注1) 「マルン」は「馬は」,「ナミョン」は「生まれると」,「ジェジュドロ」は「済州道へ」,「ボネゴ」は「送り」,「サラムン」は「人間は」,「ナミョン」は「生まれると」,「ソウルロ」は「ソウルへ」,「ボネラ」は「送れ」をそれぞれ意味します。

(注2) 1998年2月2日～3月24日までKBSで放映された16部作のドラマです。ペ・ヨンジュン (배 용준, ヨソク役),ゴ・ソヨン (고 소영, キ・ヘジュン役), チョン・ソンモ (정 성모, カンス役), イ・チヨンウォン (이 종원, チャン・サンヨブ役) などが出演しています。

(注3) 2010年10月6日～12月23日までSBSで放映された24部作のドラマです。ゴ・ヒョンジョン (고 현정,

ソ・ヘリム役), クォン・サンウ (권 상우, ハ・ドヤ役), チャ・インピョ (차 인표, カン・テサン役), イ・スギョン (이 수경, チャン・セジン役), イ・スンジェ (이 순재, ベク・ソンミン役), イム・ヒョンシク (임 현식, ハ・ボンド役) などが出演しています。

(注4) 「ソウルエ」は「ソウルへ」,「サルミョン」は「住めば」,「ダンナギド」は「ロバも」,「ヨンソルハンダ」は「演説できる」をそれぞれ意味します。

(注5) 「ソウレ」は「ソウルへ」,「ガヤ」は行ったら「ガゴド」は「科挙も」,「ボンダ」は「受けられる」をそれぞれ意味します。

(注6) 2003年9月15日～2004年3月30日までMBCで放映された54部作の歴史ドラマです。イ・ヨンエ (이 영애, チャングム役), チ・ジニ (지 진희, ミン・ジョンホ役), ホン・リナ (홍 리나, チェ・グミョン役), イム・ホ (임 호, チュンジョン役), イム・ヒョンシク (임 현식, カン・ドック役), グム・ボラ (금 보라, ナジュテク役), ヤン・ミギョン (양 미경, ハン・ペギョン役), キョン・ミリ (권 미리, チェ・ソングム役) などが出演しています。

(注7) 2010年3月22日～10月12日までMBCで放映された60部作のドラマです。チ・ジニ (지 진희, スクジョン役), パク・ハソン (박 하선, 王妃役), イ・ソヨン (이소연, チャン・ヒビン役), ハン・ヒョジュ (한효주, ドンイ役), ペ・スビン (배 수빈, チャ・チョンス役), チョン・ジンヨン (정 진영, ソ・ヨンギ役) などが出演しています。

(注8) 2001年2月5日～2002年7月22日までSBSで放映された150部作のドラマです。カン・スヨン (강 수연, チョン・ナンジョン役), チョン・インファ (전 인화, 王妃役), ド・ジウォン (도 지원, キョンビン・パク氏役), イ・ドクファ (이 덕화, ユン・ウォンヒョン役), チェ・ジョンファン (최 종환, ジュンジョン王役), イ・ドンジュン (최

동준, パルンゲン役) などが出演しています。

(注9) 2011年2月7日～5月24日までMBCで放映された32部作のドラマです。チョン・ジョンミョン (친정명, チョンドウン役), ハン・ジヘ (한 지혜, ドンニョ役), イ・サンユン (이 상운, グイドン役), ソ・ヒョンジン (서 현진, ダリ役), ガン・ジソプ (강 지섭, ジンドウク役), イ・ムンシキ (이 문식, チャン・コクジ役) などが出演しています。

(注10) 「ソウレ」は「ソウルへ」, 「ガヤ」は「行ってこそ」, 「ガゴへ」は「試験に」, 「グブジェハジ」は「合格」をそれぞれ意味します。

(注11) 「ハヌル」は「空を」, 「ヴァヤ」は「見てこそ」, 「ピョルウル」は「星を」, 「タジ」は「取る」をそれぞれ意味します。

(注12) 2007年6月3日～7月22日までSBSで放映された16部作のドラマです。シン・ウンギョン (신 은경, キム・ダンジャ役), チェ・ジョンユン (최 정운, ハンヨン役), ビョン・ジョンス (변 정수, ナ・ドルスン役), リュウ・スヨン (류 수영, チェ・ギチャン役), ユ・ギョン (유 건, ソ・ジュンス役), チェ・ミンソ (채 민서, キム・セヨン役), パク・サンミン (박 상민, キム・ユンソク役) などが出演しています。

(注13) 2011年6月6日からMBCで放映している120部作のホームドラマです。シン・エラ (신 애라, オ・ヨンシム役), カン・ブジャ (강 부자, チェ・マクヨ役), キム・ボヨン (김 보연, チャ・ヘジャ役), イ・ハヌイ (이 하늬, キム・ヨンジョン役), パク・ユンジェ (박 윤재, ムン・シンウ役), キム・ヨンゴン (김 용건, ムン・セジン役), イ・フン (이 훈, ムン・ジンウ役), イム・ヘジン (임 예진, キム・グムシル役) などが出演しています。

(注14) 2011年1月1日～7月31日までKBSで放映された62部作のドラマです。ソン・ジェホ (송재호,

キム・ヨンホ役), イ・ピルモ (이 필모, キム・ウジン役), ソヌ・ヨンヨ (선우용여, 이・미ギョン役), 이・ジェリョン (이재룡, 키ム・ドンフン役), 윤・미라 (윤 미라, 윤・ファヨン役), 박・จู미 (박주미, 쏘・ヘ진役), 나・문희 (나문희, 차・키남役) などが出演しています。

(注15) 「ガナンハル」は「貧乏」, 「スロク」は「ほど」, 「ソウルロ」は「ソウルへ」, 「ガラゴ」は「行けと」, 「ヘッタ」は「した=いわれた」をそれぞれ意味します。

(注16) 2008年3月8日～4月27日までMBCで放映している16部作のドラマです。チェ・ジンシル (최 진실, ホン・ソニ役), チョン・ジュンホ (정 준호, ソン・ジェビン/チャン・ドン Chol 役), チョン・ウンイン (정 웅인, チャン・ドンファ役), ビョン・ジョンス (변 정수, 이・나윤役), 키ム・비온세 (김 병세, 안・유식役), 키ム・췌 (김 청, 코・조ンスク役), 키ム・췌 (김 청, 코・조ンスク役), 키ム・췌 (김 청, 코・조ンス크役), 키ム・췌 (김 청, 코・조ンス크役) などが出演しています。

(注17) 2004年1月3日～3月7日までSBSで放映している20部作のドラマです。ハ・ジウォン (하 지원, 이・스조 (イ・スジョン) 役), ソ・ジソプ (소 지섭, 칸・イヌク役), チョン・インソン (조 인성, 죠ン・ジェミン役), 박・예진 (박 예진, 차・윤주 (チャ・ユンジュ) 役), 신・이 (신 이, 스즈ンの友達役), 키ム・イルウ (김 일우, 죠ン・ジェミンの兄役), 키ム・스미 (김 수미, 죠ン・ジェミンの母役) などが出演しています。

(注18) 2007年8月27日～2008年4月1日までSBSで放映している63部作のドラマです。オ・マンソク (오만석, 키ム・췌 (キム・チョソン) 役), ク・ヘソン (구 혜선, 윤・소 (ユン・ソファ/ジェホンワンフ) 役), 코・췌 (コ・ジュウォン (고 주원, 王ソンジョン) 役), 이진 (이진, 죠ン (イジン, 죠ンヒョンワンフ) 役), チョン・グァンリョル

(전 광렬, チョジギョム役), チョン・インファ (전 인화, チョンヒョンワンフの兄役), ヤン・ミギョン (양 미경, ジョンヒワンフ役) などが出演しています。

(注19) (注8) を参照。

(注20) (注9) を参照。

(注21) (注18) を参照。

(注22) 「ソウリ」は「ソウルが」, 「チョッタ」は「いい＝好きだ」, 「ヘド」は「としても」, 「イミ」は「恋人が」, 「イツソヤ」は「いてこそ」, 「ソウルイダ」は「ソウルだ」をそれぞれ意味します。

(注23) 2002年1月4日～3月19日までKBSで放映している26部作のドラマです。ペ・ヨンジュン (배 용준, カン・ジュンサン/イ・ミンヒョン役), チェ・ジウ (최 지우, ジョン・ユジン役), パク・ヨンハ (박 용하, キム・サンヒョク役), パク・ソルミ (박 솔미, オ・チェリン役), リュスン (류 승수, クォン・ヨングク役), イ・ヘウン (이 해운, ゴン・ジンスク役), チョン・ドンファン (정 동환, キム・ジンウ役), ソン・オクス (송 옥숙, カン・ミヒ役) などが出演しています。

(注24) 2011年7月20日～10月6日までKBSで放映している24部作のドラマです。パク・シフ (박 시후, キム・スンユ役), ムン・チェウオン (문 채원, イ・セリョン役), ソン・ジョンホ (송 중호, シンミョン役), ホン・スヒョン (홍 수현, キョンヘ王女役), イ・ミンウ (이 민우, ジョンジョン役), イ・スンジェ (이 순재, キム・ジョンソ役), などが出演しています。

(注25) 2010年5月3日～11月11日までMBCで放映している133部作のドラマです。ジョ・ユンヒ (조 윤희, ハン・ジミン役), イ・テゴン (이 태곤, イ・テヨン役), ソ・ユジン (소 유진, ムン・ヒョンジン役), パク・サンウオン (박 상원, ムン・ジョンホ役), キム・ヨンゴン (김 용건, ハン・ギョンサン役), ユン・ヨジョン (윤 여정, ジ

ョ・ユンヒ役), ソ・スンマン (서 승만, ジョ・ユンウ役) などが出演しています。

(注26) 「モロ」は「横行」, 「ガド」は「行っても」, 「ソウルマン」は「ソウルだけ」, 「ガミョン」は「行けば」, 「デンダ」は「いい」をそれぞれ意味します

(注27) 2008年3月5日～5月15日までSBSで放映された21部作のドラマです。キム・ハヌル (김 하늘, オ・スンア役), パク・ヨンハ (박 용하, イ・ギョニンミン役), イ・ボムス (이 범수, チャン・ギジュン役), ソン・ユンア (송 윤아, ソ・ユンウン役), イ・ヒョンチョル (이 형철, ジン・サンウ役), ハン・ヘウオン (한 예원, チェリ役), ホン・ジミン (홍 지민, イ・ヘギョン役) などが出演しています。

(注28) 「モロ」は「横行」, 「ガナ」は「行っても」, 「ギオガナ」は「這っていても」, 「ソウル」は「ソウル」, 「ナンデムンマン」は「南大門だけ」, 「ガミョン」は「行けば」, 「グマンイダ」は「いい」をそれぞれ意味します。

(注29) 「ソウル」は「ソウル」, 「グギョン」は「見物」, 「モッヘボン」は「したことのない」, 「サラムウン」は「人は」, 「ジョスン」は「世の中」, 「ガソド」は「行く」, 「チョッギョナウンダ」は「追い出される」をそれぞれ意味します。

参考文献

キムドンソプ (2005) 「済州の馬と関連民俗に関する研究」『済州島研究』28集

朴倬玄 (2008) 『韓国人を愛せますか?』講談社

朴倬玄 (2009) 『韓国人は好きですか?』講談社

朴倬玄 (2010) 『韓流「女と男・愛のルール」』講談社